



つなかり



南予地区愛護班活動研究集会「青少年健全育成の集い」

～地域の教育で未来を変える～

6月13日(土)に伊方町生涯学習センターで、南予地区愛護班活動研究集会「青少年健全育成の集い」が開催されました。

情報提供

県社会教育課より、愛護班の経緯と青少年教育の現状及び課題について情報提供がありました。現在、急速なデジタル化や共働き世帯の増加により、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化していることが説明されました。その中で、自己肯定感の低下、リアルな体験活動の減少、情報メディアを介したトラブルという三つの社会的課題が指摘されました。これらの課題への対応として、地域・学校・家庭が連携した「見守りネットワーク」構築の重要性が示され、日常的な挨拶や声掛け、地域行事への参加を通じて相互理解を深めることの必要性が強調されました。参加者にとって有意義な情報提供となりました。

講演

【演題】「海洋ごみ問題の現状と未来」

～海洋プラスチックでキーホルダー作り体験～

【講師】伊方町地域おこし協力隊 民法 紗希 氏

海洋ごみ問題の現状と今後の課題について講演が行われました。伊方町を含む南予地域は、美しい海に恵まれている一方で、海洋ごみの増加が深刻な問題となっています。海中のごみの量は浜辺よりも多く、海洋生物が餌と間違えて摂取するなど、生態系への影響が懸念されていることが示されました。参加者にとって、環境問題について、深く考えることができる講演となりました。



<参加者の声>

- 海洋ごみについて知らないことを学ぶことができ、大変勉強になりました。
- 自然豊かな愛媛でも、このようにたくさんの海洋ごみがあることを知り、大変驚きました。
- 一人一人が日頃からごみを出さない努力をすることが大切だと思いました。
- 普段地域で行っている清掃活動も海洋ごみを減らすことにつながっているのだと感じました。
- 具体的な数値をもとに、未来について考えることができました。
- 体験活動の重視、必要性を改めて考えることができました。

ワークショップ【キーホルダー作り体験】

講演後、海洋プラスチックごみを活用したキーホルダー作り体験を実施しました。初めに講師の民法氏より作成方法の説明があり、その後、海洋プラスチックごみを用いてキーホルダー作りを行いました。体験を通して、参加者同士でコミュニケーションを取りながら作業に取り組む様子が見られました。



<参加者の声>

- 世界で一つだけのキーホルダーを作ることができて、うれしかったです。
- 今後、子どもたちと一緒に取り組んでみたいと思いました。
- ごみから新しいものが作れるという、逆転の発想は、これからの社会で大変重要になってくる考えだと思います。
- ぜひ、学校の授業やPTAの会で実施したいです。
- ごみとしか認識していないものがアートになるということで、クリーン活動に対する子どもたちのモチベーションを上げるための好材料だと思えました。
- 大人でも夢中になる活動なので、子どもたちはとても楽しめると思いました。

情報交換

「環境保全活動・体験活動の充実」をテーマに、9グループに分かれて情報交換を行いました。地域や職種の異なる様々な立場の方と意見が交わされ、充実した協議となりました。参加者の方がこれまで実践してきた取組を報告し合い、人口減少や担い手不足など、地域が抱える課題についても活発な意見交換が行われました。



<参加者の声>

- 他の市町の現状とこれからの課題を共有することができました。
- 短い時間でしたが、付箋の活用で効率よく情報交換ができました。
- 互いの悩みを相談するよい機会となりました。
- 「環境」をテーマにじっくり話し合うことができ、大変有意義な時間でした。
- グループの皆さんと、とても雰囲気よく進められました。
- 様々な立場の方の取組、思いをうかがうことができ、勉強になるし、楽しかったです。